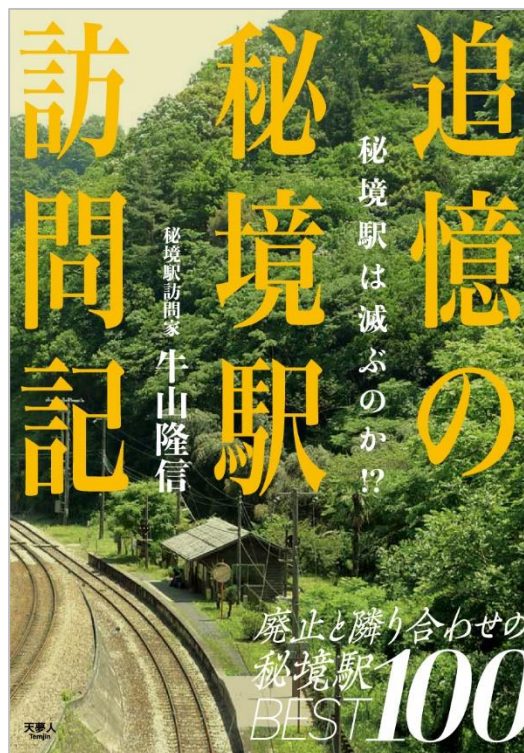


各 位

2022年12月19日  
株式会社天夢人

秘境駅訪問の第一人者、牛山隆信氏による  
秘境駅 BEST100 を一冊に！  
『追憶の秘境駅訪問記 秘境駅は滅ぶのか!?!』を発売

インプレスグループで鉄道・旅・歴史メディア事業を展開する株式会社天夢人(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:勝峰富雄)は、2022年12月19日に、『追憶の秘境駅訪問記』を刊行いたしました。



秘境駅訪問家である牛山隆信氏が、これまで訪れてきた秘境駅の記録を新たにまとめた一冊。自身が運営するホームページ「秘境駅へ行こう！」において100位以内にランクインした駅すべての駅を、豊富な写真、わかりやすくユニークな文章とともにランキング形式で掲載。なぜそこに駅ができたのか、その当時には秘境駅には何があったのかなど、牛山氏が訪問した当時の駅の様子を臨場感あふれる写真や文章とともに振り返ることができる、“追憶”の訪問記となっています。

1～100位までの秘境駅をランキングで掲載！

1位

# 小幌

北海道  
JR室蘭本線

秘境駅度 20

駅舎評点 18

外部アクセス 17

秘境評点 94

秘境駅DATA

所在地 北海道豊浦町札文庫

開業年 1943 (昭和18)年

乗降客数 不明

所在地 北海道豊浦町札文庫  
開業年 1943 (昭和18)年  
乗降客数 不明

## 岩場に阻まれたキング・オブ・秘境駅！

人を寄せ付けない孤高の駅と小幌仙人の思い出

ここは、車道はおろか歩道も存在しない究極の秘境駅だ。海岸までの急斜面を降りる道があるが、訪問時は深い雪で覆われ、歩ける状態ではなかった。撮影のために雪の中を歩き回り、待合室へ入ろうと近づくと煙突から煙が出ていた人がいる。勇気を振り絞って

正面に「秘境」の小幌海岸を望む

普通車が観光風景の拠点として駅を維持管理している

誰も寄せ付けない神秘的な空間が広がっている

かつて小幌仙人の冬の住処になっていた小屋

声をかけると、中からホムレスと思わしき人が出てきた。少し話をさせてもらうと、人の良さそうな感じで「夏は海岸に降りて暮らしているが、冬は寒いのでここに、」と「鉄道会社の人がここにいていい」と答えた。と答えるように話した。私をシャナリストかと問うたので、個人の生活について話さないと言った。

ホーム上の気温はマイナス11度にもなり、しばし佇んでいると突然トンネルの奥からドーン！と鈍い音がして強風が吹いてきた。特急「スーパー北斗」が雪降を上りながらすすまじい勢いで通過して行くやがて、この駅に停車する最後の列車がやってきて乗り込んだ。

初回訪問 1999年12月12日

2位

# 尾盛

静岡県  
大井川鐵道井川線

秘境駅度 20

駅舎評点 15

外部アクセス 17

秘境評点 91

秘境駅DATA

所在地 静岡県川根本町大間

開業年 1959 (昭和34)年

乗降客数 1日1人

所在地 静岡県川根本町大間  
開業年 1959 (昭和34)年  
乗降客数 1日1人

## 誰もいない鬱蒼とした森林の駅

ダム建設で繁栄した昭和30年代の営みが残る

尾盛駅への到達は列車以外ではほぼ不可能である。車道はおろか連絡する歩道さえも無いという過まじさで、室蘭本線の小幌駅とはほぼ同じ条件だ。

森林鉄道のような小さな列車から秘境のような低いホームに降り立つと、乗ってきた列車は振り上げ

現在使われているのは高さ10cm程度の低いホーム

苔が生えた蓋戸や壁が取説していた

壊れたトロッキの車輪が独特らしい

駅舎は昭和30年代の建築で、木造の駅舎が特徴的

駅舎は昭和30年代の建築で、木造の駅舎が特徴的

な気配を残していった。鬱蒼とした森林の中、とても寂しい状況だ。しかし、誰かにも東浦されず、人の視線も感じない。人間が動物としての営みを開始した瞬間だ。さあ冒険の探検を始めよう！

大自然の猛威に打ち果てる廃屋。若生した蓋戸の跡。そして無造作に割られた酒の空き瓶……。昭和30年代、ここは森林開発による伐採と奥泉発電所ダムの湧水トンネル建設の現場だった。ここにも多くの労働者が住み、繁栄した歴史があったのだ。

やがて迎える列車がやって来た。小さな列車だが、とてもたくましい存在だ。ホッとした安堵の息が包まれる。

初回訪問 2000年11月16日

駅ごとにすべて2ページで展開。秘境駅度をあらわすグラフ、駅の基本データ、牛山氏撮影の写真、訪問記という構成となっており、往時の駅の様子を楽しむことができます。

## 著者紹介

牛山隆信(うしやま・たかのぶ)

秘境駅訪問家。1967年東京生まれ。「秘境駅」という新ジャンルを開拓した第一人者。会社員として勤務するかたわら、これまでに訪れた駅は500以上にのぼる。ホームページ「秘境駅へ行こう！」では、1999年から現在までの秘境駅探訪の記録、各年のランキングが綴られている。秘境駅にまつわる著者多数。

## 【書誌情報】

書名: 追憶の秘境駅訪問記 秘境駅は減ぶのか!?

仕様: A5 判・208 ページ

定価: 2,420 円(本体 2,200 円+税 10%)

発売日: 2022 年 12 月 19 日

全国書店、オンライン書店の Amazon などで発売中。

<https://amzn.to/3e8ThE6>

【株式会社天夢人】 <https://www.temjin-g.co.jp>

2007 年設立。隔月刊雑誌『旅と鉄道(奇数月 21 日発売)』をはじめとする、鉄道・旅・歴史・民俗・カルチャーをテーマとした雑誌や書籍を発行し、人生を豊かにするための情報を発信しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役:松本大輔、証券コード:東証スタンダード市場 9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

---

## 【本件に関するお問合せ先】

株式会社天夢人 担当:真柄

Tel: 03-6837-4680 / E-mail: [info@temjin-g.co.jp](mailto:info@temjin-g.co.jp)

URL: <https://www.temjin-g.co.jp>